



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 吉田利弘

昭和40年1月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和39年5月9日に宮城県花山村(現栗原市花山)の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

茶会復活、彩り輝く コロナ禍以前の形に 第60回宮城県芸術祭開幕

「第60回宮城県芸術祭」が9月23日、せんだいメディアアテークでの展示を皮切りに開幕。昨年の長唄演奏会に続いて茶会も復活し、ほぼコロナ禍以前の内容で節目の芸術祭を展開した。新型コロナウイルスの位置付けが2類相当から5類に移行し、感染状況も落ち着いてきていることから、開会式も従来の形式で実施



4年ぶりに復活した茶会

した。西村一観執行理事の司会で、冒頭、芸術祭会長兼実行委員長を務める吉田利弘理事長が開会のあいさつ。名誉会長の村井嘉浩宮城県知事(佐々木均県環境生活部長・代理出席)が祝辞を述べた後、共催8団体の代表らが、テーブルカットを行った。今回の芸術祭は、展示系の第I期(9月23〜26日)の写真展・写真公募展のフォトサミット、絵画展(公募の部)、彫刻展・彫刻公募展で開幕。第II期(9月30日〜10月3日)の絵画展、第III期(10月7〜10日)の華道

展(前期7〜8日、後期9〜10日)、書道展と続いた。

9月24日には日立システムズホール仙台のコンサートホールで音楽コンクール・ガラコンサートがあり、10月5日は岩手県南等のキリシタンの里を訪ねる文学散歩を実施。15日は文芸

**議案1件可決、承認
令和5年度定時総会**

令和5年度定時総会が6月4日、仙台市福祉プラザのふれあいホールで開かれた。議案は4年度事業報告及び収支決算についての1件で、採決の結果、賛成多数で可決、承認された。

佐藤皖山執行理事の司会で開会。正会員の出席は1048名(委任状出席者996名を含む)で、会員1790名の過半数を上回っており、総会の成立を宣言した後、吉田利弘理事長が開会のあいさつを行った。

吉田理事長は4年度の活動を振り返りつつ、5年度の事業計

年鑑発行、トークネットホール仙台・小ホールで長唄演奏会、28日は日立システムズホール仙台のコンサートホールで音楽会と東京エレクトロンホール宮城の会議室で文芸祭もあった。

今回、特筆すべきは、10月14、15の両日、輪王寺で開かれた茶会だ。実施は流派有志の形とし、参加は江戸千家、煎茶道三彩流、武者小路千家(以上14日)、裏千家、遠州流茶道、表千家(以上15日)の6流派にとどまったが、5月21日に試行的に手掛けた「研修茶会」(4流派参加)の実績を

画に言及。節目を迎える第60回宮城県芸術祭、明年の60周年記念事業、さらに本年7月、主管の立場で関わる東北・北海道芸術文化団体協議会創立50周年記念シンポジウムの完遂、成功に向けて、会員の協力、結束を呼び掛けた。また、今後の協会運営について触れ、会員数の減少傾向に危機感を強調。既存会員の継続と新会員の獲得を目指し、力を尽くす決意も示した。

報告、議事は渋谷青龍書道部長を議長に進行。5年度事業計画及び収支予算は、理事会決議案件のため、西村一観、菅原宗初両執行理事が説明を交えて報

支えに、秋の風物詩が4年ぶりに復活。全流派(現在11流派)参加に向けて、着実な一歩を記した。

11月8〜12日には、TFUGギャラリーミニモリで工芸展が公募展・杜のみやこ工芸展と合わせ開催した。

12月1日、ホテルメトロポリタン仙台で表彰式、明年2月11日、日立システムズホール仙台で音楽コンクール(ピアノ、ヴァイオリン)予選、3月10日、ピアノ、同17日にヴァイオリンのそれぞれ本選が予定されている。

議案の4年度事業報告及び収支決算は、若柳梅京、佐藤淳一両執行理事が内容を説明し、岡本勝監事が監査報告書を読み上げ、運営・決算が適正に行われたとした。審議で質問、意見等はなく、議案は挙手(賛成多数)により、可決、承認された。

今回は、シンポにおける講演の実施を考慮し、総会時恒例の記念講演会の開催を見送った。

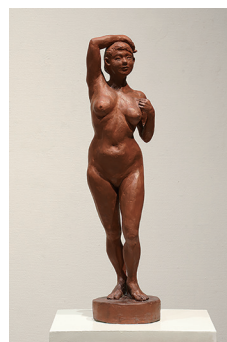
第60回宮城県芸術祭

百花繚乱の杜 至芸



県芸術祭・彫刻展

【彫刻展（9月23～26日）】
出展は25点。招待1点。ホワイエ展示もあり、作品の多様性を浮き彫り。写真は最高賞、宮城県芸術祭賞受賞の作品名「H：no・ma・lu 2023」。造形の美しさが印象的。



県芸術祭・彫刻公募展

【彫刻公募展（9月23～26日）】出展は7点。王道を行くような作品が目立った。招待作家の作品も展示。写真は最高賞、宮城県芸術協会賞受賞の作品名「想う」。バランスに優れ優美。



県芸術祭・絵画展(公募の部)

【絵画展・公募の部（9月23～26日）】出展は85点。写真は最高賞、宮城県芸術協会賞受賞の作品名「BLUE PLANET 2023」。切り絵の大作。緻密で全体のデザインも秀逸。



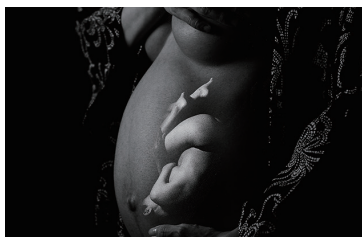
県芸術祭・写真展

【写真展（9月23～26日）】出展は75点。モニター展示「渾身の1枚」、部創設30周年特別企画「佐々木徳朗の世界（昭和の記録）」、ギャラリートーク（3回）も実施した。写真は最高賞、宮城県芸術祭賞の作品名「吹雪く朝」。



県芸術祭・絵画展（日本画）

【絵画展（9月30日～10月3日）】日本画32点、洋画161点、役員78点を展示。写真は最高賞、宮城県芸術祭賞受賞作品（日本画）。題名は「夜さり」。昨年の河北新報社賞に続く入賞。



県芸術祭・写真公募展

【フォトサミット in Sendai 2023（9月23～26日）】「自由部門」「東北の風土」「アート」の3部門、応募総数903点のうち、入賞：入選108点を展示。写真は入賞受賞の作品名は「ワタシ、ループ」。



県芸術祭・絵画展（洋画）

【絵画展（9月30日～10月3日）】最高賞、宮城県芸術祭賞受賞作品（洋画）。作品名は「ハナミズキの頃」。連続受賞の快挙。落ち着いた色調で品のある女性を表現。芳醇な香り漂う。

**初めて記録集を制作
応募促す効果に期待
フォトサミット2023**

河北新報社との連携でスタートし、第4回を迎えた写真公募展、フォトサミット in Sendai 2023で今回、新たな工夫が施された。「自由部門」「東北の風土部門」に加えて「アート部門」を設けたほか、入賞・入選作品を写真と講評で紹介する記録集（800円）を初めて制作。応募者全員に進呈した。

応募者の励みにもしてもらい、参加の呼び水と公募展の一層の定着を期待する試み。入賞作品は審査員らを中心に作成、入選作品は写真部の実行委員らが寸評を手掛けた。掲載作品数も多く、関係者が手分けし、手間のかかる作業をこなした。

今回、「今」に対する思いが濃厚に現れた刺激的な作品が集まった」（奥山淳志審査委員長）と称賛された公募展。応募の状況は、おおむね想定通りだったが、制作の幅の広がりと、さらなる魅力アップにつながる実践として、写真部の積極的な対応は大いに評価されている。

高みを目指し、会員展も含めて、芸術祭写真展のアンケートも実施した。

【華道展（10月7～10日）】
出展は前期・後期計66人、62席。昨年を上回り、ほぼコロナ禍以前の作品数を確保した。先行きの裾野の広がりを期し、チャレンジ席も5流、計6席設けた。



県芸術祭・華道展



県芸術祭・長唄演奏会

【長唄演奏会（10月15日）】トクネットホール仙台小ホールで開催。特別企画、三味線文化譜宗家六世家元の杵家弥七さんの講話をはじめ、『都風流』『連獅子』『喜三の庭』『竹生鳥』を演奏。冷たい雨の中、足を運んだ約150名が名曲を堪能した。

【書道展（10月7～10日）】

出展は262点。役員部の62点、会員の部200点。昨年並みを維持した。墨の世界の広がり、奥深さを披露した。写真は最高賞、宮城県芸術祭受賞受賞作品。作品名は「朱彝尊詩」（漢字）。



県芸術祭・書道展

【文芸祭（10月28日）】東京エレクトロンホール宮城会議室で開催。

第8回文芸作品公募表彰式と文芸受賞者の感懐と朗読の2部構成。公募応募数は一般215点、ジュニア263点。2023年版文芸年鑑も発行（10月15日）。650部、1000円。【文学散歩（10月5日）】岩手県奥州市、一関市を



県芸術祭・文芸祭

中心に隠れキリシタンの里を巡った。参加は29名。

【音楽会（10月28日）】日立システムズホール仙台コンサートホールで開催。

アンサンブルの響き々のテーマで、ピアノ、室内楽団を含む弦楽から声楽まで、9曲を披露。秋の夕べ、408名が名演の調べを堪能した。



芸術祭・音楽会



芸術祭・工芸展

【工芸展（11月8～12日）】TFUギャラリーミニモリで開催。

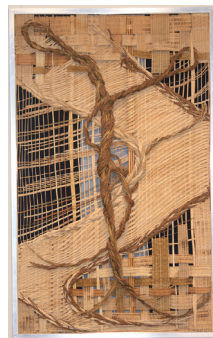
写真は最高賞、宮城県芸術祭受賞作品（染織）。作品名は「花の降る」。上品で計算され尽くした繊細な色調が目を引き。技量の高さは衆目一致。

【第43回音楽コンクールガラコンサート（9月24日）】日立システムズホール仙台コンサートホールで開催。



県芸術祭・ガラコンサート

場の約500人が胸を熱くし、聴きほれた。



杜のみやこ工芸展

【杜のみやこ工芸展（11月8～12日）】TFUギャラリーミニモリで開催。

写真は杜のみやこ工芸展大賞の宮城県芸術協会賞受賞作品（木竹）。作品名は「風韻」。竹をメインに抽象絵画風に編み上げた技量の光る意欲作。

着実な前進も内容精査を 第4回杜のみやこ工芸展

河北新報社との連携による第4回杜のみやこ工芸展の実績によると、応募者は151名、作品数183点で、前回の162名、200点を下回った。数から質の向上への意識を強めた中で、のわずかな落ち込みは、前向きに受け止めていい。ただ、今後の安定的な事業実施に向けて一層、内容の精査に努めたい。
東北以外の10都県から応募があり、全国的な広がりには明るさがのぞくが、宮城・東北の動向が弱含み。地域の工芸文化の発展を主目的とする事業趣旨から、おひざ元の揺らぎは軽視できず、軸である陶芸の減少もいささか気になるところだ。
質重視の審査で、総合的な作品の質は高まり、公募展のレベルも向上している。こうした審査委員の評価に、着実な前進を感じつつ、応募総数の落ち込みに歯止めをかける対策も欠かさない。応募経験者の参加見送りが目立っており、継続出品を促す手立てをはじめ公募の在り方に更なる工夫が必要なようだ。

広がる芸術文化の役割

振興・発展に向けて一石 芸文協、50周年記念シンポ

当協会が加盟する東北・北海道芸術文化団体協議会（芸文協、会長・吉田利弘理事長）が創立50周年を迎えたのを機に7月14日、仙台国際センターで記念シンポジウムを開催した。写真上下。会場の大ホールには芸術文化と社会の未来に関心を寄せる市民ら約400人が足を運び、その在り方と振興・発展方向に思いを深めた。

テーマは「時代はアートだ！芸術文化が拓く、わたしたちの（社会）未来図」。芸術文化の価値や役割を「人（健康）」「企業（経済）」「地域（社会）」の三つの側面から掘り下げ、捉え直す中で、その振興・発展の道筋を探り、機運の醸成を図る狙いだ。

基調講演、トークセッション、パネル討論の3部構成で、新たな芸術観への認識共有化と発展理論の思索・提起を内容とする講演と、関連する具体的事例の

報告を主とするトークを柱に据えた。コーディネーターは、河北新報社の安倍樹取締役デジタル戦略室長が務めた。

まず、著名な著作家でパブリックスピーカーの山口周氏が「美意識が広げる社会彫刻の可能性」の演題で基調講演。未来社会の創造に向けて、その歩みを振り返り、広告映像を絡ませつつ、現代社会を「役に立つだけでなく、意味が求められる時代」と捉え、「ビジネスも芸術活動だ」と強調。経済活動から日常の暮らしまで、社会のありように関わる美意識の重要性を

指摘した。

トークのゲストは、「公益財団法人音楽の力による復興センター・東北」顧問の大澤隆夫氏、「ヤマガタデザイン」代表取締役の山中大介氏（映像参加）、「Reborn Art Festival」実行委員会事務局長の松村豪太氏。

長年、仙台フィルハーモニー管弦楽団に携わってきた大澤氏は、被災者の心の復興に向けた1000回を超えるコンサートの実績を紹介。社会をデザインするまちづくり会社を起業、実績を上げる山中氏は、事前収録のインタビューを通じて、感性にも支えられた共感に基づくビ

芸文協宣言（要旨）

本日のシンポジウムにおいて、改めて芸術文化の役割・価値の大きさと「アート思考」の重要性を学び、歴史や伝統に向き合いつつ、芸術観の「新しい常識」を受け止め、思索と挑戦的实践を重ねる必要とともに、高みに向けた「芸術文化新時代」の波動を実感しています。足元で活動の環境は厳しさを増し、東日本大震災や新型コロナウイルスの影響も脱し切れずありませんが、芸術文化に対する期待感の高まり等を契機として、地域と共に

ビジネス展開を現場から報告。東日本大震災最大の被災地で、自らの故郷でもある石巻市の復興に尽力する松村氏は、事業推進のキーマンとして、まちづくりとアートの関わりを解説した。

パネル討論には山口氏らのほか、7団体の会長、理事長らが出席。トップを代表して3氏が講演、トークの感想を述べたほか、それぞれが具体的な取り組み等を紹介しつつ、今後の推進方向について質疑を交わした。

劇作家で公立芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザ氏による、祝意と共感のメッセージが紹介され、同日の芸文協定時総会で確認された「シンポジ

困難を乗り越え飛躍する「社会彫刻の可能性」が大きく広がりはじめようにも思われます。

東北・北海道の大地に育まれ、地域の芸術文化の発展をけん引する七つの総合芸術文化団体、そして北斗のごとくの広域組織「東北・北海道芸術文化団体協議会（芸文協）」は、豊かな社会づくりへの貢献という芸術文化の「本義」を踏まえ、人の本性に根差す美に関わる表現者として担う使命の重さを心に刻み、行政や団体・企業、何よ

ウム宣言」を吉田会長が読み上げ、記念事業を締めくくった。

シンポジウムは7団体で組織する芸文協の会長（幹事）県である当協会が主管を務め、企画・運営。ローテーションで開催してきている交流事業に位置付け、創立50周年の記念事業として実施した。公益財団法人宮城県文化振興財団、みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会、河北新報社が共催し、宮城県はじめ7県道などが後援。協賛企業・団体の財政支援も受けた。

芸文協の存在を広く知ってもらうため、シンポジウムは後援の共同通信社を通じて全国のメディアに配信された。

から、未来を明るく照らす「希望の灯」となれますよう、日々の活動に励んでまいります。

芸術文化には「時代を映す鏡」の側面がありますが、時に時流に抗い、また地球環境への目配りやSDGsへの対応等も意識した先進的な取り組みにより、時代を先駆ける「未来を移す鏡」でもありたいと考えます。創立50周年の節目に当たり、わたしたちはここに、その決意と覚悟を宣言として表出いたします。

2023年7月14日 東北・北海道芸術文化団体協議会



第 60 回宮城県芸術祭受賞者（会員の部）

賞 名	部 門	作 品 名	氏 名
宮 城 県 芸 術 祭 賞	写 真 部	吹 雪 く 朝	山 本 かつい (仙台市)
	彫 刻 部	Hi・no・ma・lu 2023	島 山 卓也 (登米市)
	絵 画 部 (日本画)	夜 さ り	数 本 冨英佳 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	ハ ナ ミ ス キ の 頃	中 島 みどり (大和町)
	書 道 部	朱 彝 尊 詩 (漢字)	江 村 耕 芳 (仙台市)
	文 芸 部	ア テ ン シ ョ ン (川柳)	菅 野 實 (仙台市)
宮 城 県 知 事 賞	工 芸 部	花 の 降 る (染織)	長 瀬 和 子 (仙台市)
	写 真 部	真 夜 中 の 狩 場	志 田 伸 一 (仙台市)
	彫 刻 部	感謝一生きてればこそ!!だよ	姉 齒 公 也 (大崎市)
	絵 画 部 (日本画)	森 の 大 樹	佐々木 智 朗 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	行き交う人の流れは絶えずして…	森 下 雪 子 (仙台市)
	書 道 部	や ま ぶ き (かな)	西 條 玉 静 (仙台市)
	文 芸 部	未 来 へ の 子 ど も (詩)	大 林 美 智 子 (仙台市)
	文 芸 部	雁 を 見 送 る (短歌)	大 坂 康 子 (美里町)
	文 芸 部	ク ー プ ナ イ フ (俳句)	佐々木 博 子 (大崎市)
	工 芸 部	黄 信 号 (川柳)	岩 沢 た か (仙台市)
仙 台 市 長 賞	絵 画 部 (日本画)	浄 化	小 泉 百合子 (多賀城市)
	絵 画 部 (洋画)	自 我 自 己	板 橋 かおり (仙台市)
	書 道 部	ア ラ タ ニ (墨象)	浅 野 彩 紅 (仙台市)
河 北 新 報 社 賞	写 真 部	岩 礁 星 夜	竹 内 邦 昭 (石巻市)
	彫 刻 部	生 命 II	木 村 民 男 (石巻市)
	絵 画 部 (日本画)	豊 潤	門 間 光 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	ま ち の 記 憶 II	堀 英 敏 (仙台市)
	書 道 部	疎 率 朗 悟 ・ 静 中 動 (篆刻)	伊 藤 煌 容 (多賀城市)
	文 芸 部	海 (短歌)	菅 野 美 子 (仙台市)
宮 城 県 教 育 委 員 会 教 育 長 賞	工 芸 部	晩 夏 (七宝)	松 本 幸 恵 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	海 の 記 憶	鈴 木 琢 也 (角田市)
	書 道 部	草 野 心 平 [戒壁]より (近代詩文)	建 部 紘 子 (多賀城市)
宮 城 県 教 育 委 員 会 教 育 長 特 別 賞	工 芸 部	冬 仕 度 (染織)	古 山 文 子 (塩釜市)
	絵 画 部 (日本画)	蟬 の 声	山 本 政 彰 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	The Courage to Be	岡 崎 義 恵 (仙台市)
	書 道 部	慟 (少字)	板 橋 雅 邦 (名取市)
仙 台 市 教 育 委 員 会 教 育 長 賞	書 道 部	語 る 人 (近代詩文)	佐 藤 華 炎 (仙台市)
	工 芸 部	初 夏 の 訪 れ (金工)	菅 原 恵 美 子 (仙台市)
宮 城 県 議 会 議 長 賞	絵 画 部 (洋画)	変 わ る 世 界	菅 原 さ ち 子 (仙台市)
	書 道 部	杜 少 陵 詩 (漢字)	小 泉 佳 香 (大崎市)
仙 台 市 議 会 議 長 賞	絵 画 部 (洋画)	杜 の ト ワ イ ラ イ ト	小 泉 留 美 子 (仙台市)
	書 道 部	松 窓 乙 二 の 句 (近代詩文)	天 野 白 扇 (石巻市)
公 益 財 団 法 人 宮 城 県 文 化 振 興 財 団 賞	絵 画 部 (洋画)	想 い	金 子 玲 子 (仙台市)
	書 道 部	鷹 詩 (漢字)	板 橋 翠 苑 (仙台市)
	写 真 部	ダ イ ヤ モ ン ド テ イ ク オ フ	伊 藤 克 彦 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	風 が み た も の	石 垣 裕 子 (岩沼市)
	書 道 部	孟 浩 然 詩 (漢字)	鈴 木 東 鳳 (大崎市)
	書 道 部	蘇 武 詩 (漢字)	中 島 桃 沙 (仙台市)
公 益 財 団 法 人 仙 台 市 民 文 化 事 業 団 賞	書 道 部	三 好 達 治 の 詩 (近代詩文)	加 納 鳴 華 (大崎市)
	文 芸 部	野 分 晴 (俳句)	屋 代 ひ ろ 子 (仙台市)
	工 芸 部	菱 刺 し 帯 [待宵] (刺繡)	あ つ み 智 子 (仙台市)
	写 真 部	時 間 の 表 象	相 沢 開 (石巻市)
	絵 画 部 (日本画)	早 春 譜	荒 井 静 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	Leonardoへのオマージュそしてこれからー(II)	大 竹 幸 子 (仙台市)
公 益 財 団 法 人 カ メ イ 社 会 教 育 振 興 財 団 賞	書 道 部	高 橋 新 吉 の 詩 (近代詩文)	佐々木 一 峰 (大崎市)
	絵 画 部 (日本画)	希 望 の 詩	菅 井 衆 子 (仙台市)
菅 野 美 術 館 賞	絵 画 部 (洋画)	オ ア シ ス タ イ ム	三 浦 頼 子 (石巻市)
	彫 刻 部	ア ン モ ナ イ ト 化 石 か ら の 旅 立 ち	新 藤 陸 (仙台市)
門 伝 勝 太 郎 賞	絵 画 部 (洋画)	心 恋 ふ	佐 藤 藤 結 (仙台市)
	書 道 部	李 白 詩 (漢字)	日 野 象 風 (仙台市)
宮 城 県 芸 術 祭 奨 励 賞	写 真 部	光 り	谷 内 信 行 (仙台市)
	写 真 部	心 念	林 茂 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	凡 庸 な た く ら み	中 村 た み 子 (石巻市)
	絵 画 部 (洋画)	午 睡	小 川 智 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋画)	雷 様 は も う 行 っ て し ま っ た よ	及 川 幸 子 (仙台市)
	書 道 部	琴 線 (少字)	三 浦 八 重 子 (仙台市)
	書 道 部	作 品 2023.7 飛 び あ が れ (墨象)	関 雀 鈴 (仙台市)
	書 道 部	不 動 明 王 (近代詩文)	伊 勢 枝 香 (仙台市)
	書 道 部	杜 少 陵 詩 (漢字)	館 岡 経 香 (秋田県)
	書 道 部	杜 甫 詩 (漢字)	福 田 苔 華 (仙台市)
宮 地 房 江 賞	書 道 部	疾 風 勁 草 (篆刻)	大 沼 樵 峰 (仙台市)
	文 芸 部	土 偶 千 体 (俳句)	佐 藤 綾 泉 (気仙沼市)
宮 地 房 江 賞	工 芸 部	ト キ ノ ワ ン (陶芸)	千 田 玲 子 (仙台市)

第 60 回宮城県芸術祭 絵画展 (公募の部) 彫刻公募展 フォトサミット in Sendai 2023 受賞者

部 門	賞 名	作 品 名	氏 名
絵 画 展 (公 募 の 部)	宮城県芸術協会賞	BLUE PLANET 2023	荒井志帆 (美里町)
	優 秀 賞	山の雪解けを待つ釜房湖	和田伸太郎 (仙台市)
	優 秀 賞	起きて半畳寝て一畳	佐々木大斗 (仙台市)
	奨 励 賞	ゆ め に 沈 む	酒井風花 (大和町)
	奨 励 賞	樹 霊	大友倫章 (岩沼市)
	奨 励 賞	8. 2 1 d i a l o g u e	白倉向日葵 (仙台市)
	奨 励 賞	記 憶 の か け ら	高橋則子 (仙台市)
	奨 励 賞	七 月 の 参 道	村上温子 (仙台市)
	奨 励 賞	仕 業	佐藤牛歩 (大郷町)
彫 刻 公 募 展	宮城県芸術協会賞	想 う	佐藤いく子 (仙台市)
	奨 励 賞	初 恋 の お ん な の こ	高平将人 (仙台市)
	奨 励 賞	リ ズ ム	伊藤碧泉 (仙台市)
フォトサミット in Sendai 2023	フォトサミット大賞	ワ タ シ 、 ル ー プ	保崎裕子 (仙台市)
	公益社団法人宮城県芸術協会賞	二 人 の 朝	工藤一至 (大阪府)
	河北新報社賞	祭 り の 日	安邦邦夫 (秋田県)
	J A L 賞	放 電	藤島純七 (仙台市)
	宮城県知事賞	雪 と 光 の 中 で	成松和司 (愛媛県)
	青森県知事賞	村 自 慢 の ア ー ト	藤島純七 (仙台市)
	岩手県知事賞	夕 陽	渡辺加津子 (仙台市)
	秋田県知事賞	祈 り を こ め て	大関一泰 (仙台市)
	山形県知事賞	吹 雪 く 日	浅黄成美 (山形県)
	福島県知事賞	風 雪 に 耐 え て	矢田目敏弘 (山形県)
	仙台市長賞	朝 霧 に 抱 か れ て	佐藤正紀 (福島県)
	宮城県教育委員会教育長賞	川 辺 の 情 景	阿部暢 (東松島市)
	仙台市教育委員会教育長賞	昼 休 み の 勉 強 小 僧	佐藤昭夫 (大崎市)
	宮城県議会議長賞	ス ス は ら い	加藤秀健 (岩手県)
	仙台市議会議長賞	婦 路	鈴木光太郎 (大崎市)
	公益財団法人宮城県文化振興財団賞	し っ か り 持 で っ !	八嶋真子 (仙台市)
	大崎市市長賞	妖 精 た ち の 舞	村上忍 (仙台市)
	東北電力賞	タ イ ル の ア ー ト	庄子哲郎 (仙台市)
	東北放送賞	春 風 駘 蕩	岡本洋三 (東京都)
	ニ コ ン 賞	三 ツ 石 森 林 公 園 6	星 昂 秀 (岩手県)
	堀内カラー賞	星 を 釣 る 人	亀 修 一 (仙台市)
	t c d 東北カラーデュープ賞	R e f l e x i o n	安邦邦夫 (秋田県)
		栗崎貴史 (多賀城市)	

第 4 回 杜のみやこ工芸展 受賞者

賞	作 品 名	氏 名
宮城県芸術協会賞	風 韻 (木 竹)	中村小百合 (仙台市)
河北新報社賞	木 地 呂 塗 雀 小 箆 筍 (漆)	杉山智一 (大和町)
公益財団法人宮城県文化振興財団賞	有 線 七 宝 水 指「さ さ め く 旅 人」(七 宝)	松本幸恵 (仙台市)
J A L 賞	藍 染 着 物 風 (染 織)	伊藤眞理 (仙台市)
宮城県知事賞	星 に 願 い を (染 織)	安倍裕貴 (白石市)
青森県知事賞	深 海 の 光 (陶 磁)	相澤まゆみ (長野県)
岩手県知事賞	炭 化 彫 紋 文 の あ る 陶 (陶 磁)	今田拓志 (広島県)
秋田県知事賞	月 見 月 (木 竹)	小澤義夫 (川崎町)
山形県知事賞	囁 く 森 (漆)	田中泰雄 (仙台市)
福島県知事賞	薔 薇 貫 入 釉 大 皿「光 彩 の 薔 薇」(陶 磁)	本間友幸 (長野県)
仙台市長賞	風 模 様 (陶 磁)	山口幸雄 (仙台市)
宮城県教育委員会教育長賞	清 流 (陶 磁)	堀内洋子 (利府町)
仙台市教育委員会賞	冬 夏 青 青 (木 竹)	田中政孝 (仙台市)
公益財団法人仙台市民文化事業団賞	赤 陶 象 嵌 草 文 水 指「草 原 に 蝶」(陶 磁)	島見美由紀 (岩沼市)
東北福祉大学賞	舞 (染 織)	早田美春 (塩釜市)
NHK仙台放送局長賞	混 沌 と し た 光 の 中 で (染 織)	春日たみ子 (亶理町)
東北放送賞	言 葉 な き 歌 (染 織)	加藤優一 (仙台市)
東北電力賞	絆 (陶 磁)	遠藤幸子 (福島県)
新人賞	C O L O R F U L (陶 磁)	佐藤友華 (仙台市)
新人賞	ぎ ょ ろ...う ご う ご...ぎ ょ ろ... (陶 磁)	半田圭吾 (栃木県)
新人賞	ス ピ ノ サ ウ ル ス (陶 磁)	御園晃 (栃木県)

芸術選奨に 会員3氏

重ねた研鑽、 実績に光

岩井純氏 美術(陶芸)



日本伝統工芸展等で入選を重ね、日韓陶芸交流展に参加したほか、

国内外で個展も開催し、作陶意欲は旺盛。発病者への陶芸リハビリや障害児らへの陶芸教室など、社会貢献活動にも積極的。教育文化功労受賞。75歳。仙台市出身。

小日向慶可(慶子)氏 美術(書)



日展に8回連続入選し、河北書道展、日本書作院展等にも、伝統

書を主軸とする意欲ある秀作を発表。読書書法展の漢字部門では読売新聞社賞を受賞。後進の指導にも熱心に取り組み、着実に成果を挙げている。68歳。仙台市出身。

海老名和雄氏 美術(写真)



河北写真展で特選・河北賞4回のほか、全国の公募展で入賞・入選

を重ねる。土門拳文化賞(酒田市)も受賞。市井の人々や古里を活写し、写真表現の意義を再確認させる。個展も頻繁に開催し、後進の指導にも尽力。80歳。仙台市出身。

令和5年度の宮城県芸術選奨受賞者が決まり、11月30日に県庁内で授賞式が行われる。受賞者は芸術選奨、同新人賞各5名。当協会の会員、美術(工芸・陶芸)の岩井純氏、美術(書)の小日向慶可(慶子)氏、美術(写真)の海老名和雄氏が選奨に輝いた。宮城県の芸術文化の発展に寄与し、当協会の活動にも多大の貢献をされた皆さんの業績と喜びの声を紹介する。

文化の日表彰 には会員5氏

作陶の集大成を考え始めている折の受賞、嬉しく思います。札幌市での理学生時代、たまたま陶芸に出合い、京都での修行を含めて50年を超える創作の日々。アーティストより職人と、使える器の制作に励んできました。予期せぬ釉薬の化学変化を楽しめたのは、実験に通じるからかも。今後は後進の指導に更に力を注ぐつもりです。

この度県芸術選奨に選出していただき身に余る光栄です。長年の芸術祭書道展や近年の中央展での活動を評価していただけた事と嬉しく思います。この世界に入って半世紀が過ぎ、その間素晴らしい師との出逢いや仲間にも恵まれ幸運な時を過ごせてまいりました。これからも尽きること無い書の探求が出来る事を幸せに思っております。

思いもしない宮城県芸術選奨の栄誉を賜り驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。「産土」というテーマを掲げその土地に根差した人の在り様を表現し、近年は中山間地の豊かな文化や厳しい現実を見つめて参りました。それらの取り組みを評価して頂いたことを嬉しく思います。これからも体力の許す限り創作活動を続けて参りたいです。

令和5年文化の日表彰受賞者(教育文化功労)に当協会から舞踊(日舞)の藤間寿和枝(小椋寺純子)さん、仙台市、茶道(武者小路千家)の安並妙美(美代子)さん、同、文芸(詩)の玉田尊英さん、同、工芸(七宝)の安藤令子さん、蔵王町、絵画(洋画)の尾崎行彦さん、仙台市、の5名の会員が選ばれた。

藤間さんは長年、日本舞踊の普及と後進の指導・育成に努め、日本舞踊界の発展と文化芸術の振興に寄与した。73歳。安並さんは茶道部運営委員。長年にわたり、伝統文化・茶道の普及活動に従事し、茶道界の発展に寄与した。85歳。玉田さんは芸術選奨を受賞する等、優れた詩作を通じ文芸界

の発展に寄与した。文芸部長として協会も支えている。76歳。安藤さんは工芸部運営委員。長年、優れた七宝の創作を続け、後進の指導・育成にも努め、伝統工芸発展に寄与した。66歳。尾崎さんは長年、画家・版画家として優れた創作活動を行い、後進の指導・育成にも努め、地域活性化等に寄与した。68歳。

協会に会員から寄付 50万円、活動に役立てて

当協会の会員から匿名で、このほど協会に多額の寄付が寄せられた。金額は50万円。申し出を受けた吉田利弘理事長によると、会員は定時総会の案内文書や会報「はなやま」を通じて、協会の置かれた財務の状況を知り、今後の運営や活動に役立ててほしい、とのことだった。

実際、協会の財政事情は厳しい。コロナ禍による事業見送りで、多少、使途を制限された基金として残されているものの、会員数の減少に伴い、通常の収支は慢性的な赤字傾向が続いている。会費等が財源の多くを占めているため、少子高齢化をはじめ、社会環境の変化を受けて、頼みの会員数の維持が困難さを増している。会員増へ分野拡大等も模索しているが、現実的な方策は限られ、今後の財政難が想定される中での寄付は、何よりの励ましと後押しとなる。吉田理事長は「長年支えてこられた会員のご寄付をありがたく思います。ご意思を踏まえて、有効に活用させていただきます」と話している。

記念式典は来年5月
創立60周年で3事業
検討会議で方針決定

令和6年度に実施する創立60周年記念事業の骨格が固まった。記念誌(周年史)発行、記念式典及び記念イベント開催の3事業で構成し、式典を創立記念日の5月9日にトークネットホール仙台で開催し、記念イベントは芸術祭開幕と絡ませた日程で、せんだいメディアテーク

猛暑下、緊張の熱演
第三回各流子ども舞踊大会

当協会が共催する第三回宮城県各流子ども舞踊大会が7月29日、仙台市福祉プラザふれあいホールで開かれた。(公社)日本舞踊協会宮城県支部と県扇の会の主催で、子どもたちに共演の機会を提供し、伝統芸能の継

を会場に実施する方向だ。記念式典は、講演を柱に据え、対談(鼎談)の可能性も追求。芸術祭表彰式での祝宴復活を念頭に、式典のみとする。講演は

東京国立近代美術館館長の小松弥生氏(元仙台市教育長)に講師を依頼し、対談は県の文化行政を司る村井嘉浩知事と吉田利弘理事長らを想定する。記念イベントは、3年連続実施の芸術祭開幕特別企画「結い」をイメージ。各部連携を含む舞

承と次世代の育成につなげる狙い。14社中の28名が出演した。未就学児、小学生低学年、同高学年、中学生の4部構成で実施。着飾った子どもたちは、緊張の面持ちで、コロナ禍の影響

が残り、連日続く猛暑の中、地道に重ねた稽古の成果を披露した。会場には各社中の関係者や

芸術祭表彰式、12月1日

第60回宮城県芸術祭表彰式が12月1日午後1時30分から、ホテルメトロポリタン仙台で行われる。依然残るコロナ禍のリスクを考慮し、今回

も祝宴を見送り、共催団体の関係者、協会役員と受賞者や功績者のみに出席を限定し、前回並みの最大150人程度に規模を縮小しての開催となる。

台発表を軸に、県民参加のワークショップを組み合わせる内容が浮上。各部の意向をくみ取りつつ、年内めどに詳細を詰める。

記念誌は、40周年、50周年時を踏襲。ここ10年のトピックスと各部の歩みを軸に、記録・各種資料を添える編集となる。記念事業をめぐり、6月4日に役員(理事・監事)による検討会議(記念誌と式典&イベントの2グループを編成)を設置、

計画の策定作業を進めている。保護者ら約150名が詰めかけ、舞台で練り広げられる熱演に、確かな成長を感じ取っていた。

新入会員

【工芸部】渡辺輝彦(仙台市、佐藤良作(石巻市【書道部】板橋雅邦(名取市、高橋博之(仙台市【洋楽部】鈴木ゆめみ(仙台市

事務局日誌

会務報告

【定時総会】6月4日
令和4年度事業報告及び収支決算について
【第1回部長会議】7月3日
【第60回宮城県芸術祭実行委員会(第60回宮城県芸術祭実行委員会)協会創立60周年記念事業について各部入会要件の設定について芸文協創立50周年記念事業シンポジウムについて

【第2回理事会】8月7日
正会員の入会について
個人情報保護規程の制定について
会員の入賞・入選など
(事務局に連絡があったもの)

- ◇75回記念3軌展
- ◇会員優賞(大内隆)◇会員推挙(鈴木澄江)
- ◇第63回東日本伝統工芸展(陶芸)◇入選(岩井純、橋本昌彦(諸工芸)◇入選(佐瀬たか子、種澤有希子)
- ◇第47回東北現代工芸美術展
- ◇河北新報社賞(松垣孝二)
- ◇110周年記念日本水彩展
- ◇入選(堀英敏)
- ◇第58回宮城水彩展
- ◇会友優秀賞(堀英敏)
- ◇第40回秋の日本水墨画展
- ◇秋の優良賞(熊谷雪着)
- ◇第70回日本伝統工芸展(陶芸)入選(橋本昌彦、馬場興彦(木竹工)◇入選(木間潔(諸工芸)◇入選(安藤令子、佐瀬たか子、種澤有希子、鍋田尚男)
- ◇第70回河北書道展
- ◇(第一部漢字)◇委嘱作家特別賞(中條天真)◇河北会友賞(岩佐春泉)◇会友秀逸賞(齋有韻)◇東北福祉大学賞(大友伸秋(第二部かな)◇河北賞(猪股光華(第三部墨象)◇委嘱作家特別賞(佐々木青霞(第四部近代詩文)◇委嘱作家特別賞(伊勢枝香)◇会友秀逸賞(木村和祐)◇宮城県芸術協会賞(佐藤優子(第五部少字)◇委嘱作家特別賞(和泉とし子)◇会友秀逸賞(島津和子(第六部篆刻・刻字)◇委嘱作家特別賞(阿部華山)◇河北会友賞(大沼樵峰)◇会友秀逸賞(菊地昭吾)
- ◇第10回日展(第1科日本画)◇入選(奥山和子、荒井静子(第4科工芸美術)◇入選(桑原リエ(第5科書)◇入選(小日向慶可、高野芳月

受贈書

()は寄贈者
『句集 鸚哥の唄』(塚本万亀子)、『志賀一男画集』(志賀一男)、『遺歌集「白き残像」』(阿部高明)、『幕間の祈り』(氏家国造)

邦楽部 (三曲)	謹 弔
大塚 歌寿峰 殿	令和4年10月31日
絵画部 (洋画)	鈴木 宏幸 殿
1月7日	京子 殿
1月	守哲 殿
7月26日	静江 殿
8月10日	統伍 殿
8月22日	栄衛 殿
8月下旬	乾石 殿
10月16日	佐藤 殿

編集後記

大谷翔平選手の二刀流は別格だが、「二足のわらじ」的な人はいない。協会参事(書道)のIさん。9月、誘われて「白萩と伊達政宗」と題する講演会に参加した。書の大家は郷土史に通じ、長年、河川愛護にも取り組む。好奇心、探求心と使命感に導かれてのことだろうが、幅広い活動が円熟味を増す書に広がりや深みを加える。ひたすら貫く一本の道を尊びつつ、利他の心と多趣味、豊かな教養が歩む芸術の道を明るく照らすことを知る。一足を履きこなすことすら心もとないわが身を思う。